

# 平成30年度 おおさき福祉の心コンクール「福祉作文の部」

福祉作文の部  
小学生の部

最優秀賞

## 「五十センチのおくり物」

古川第四小学校 六年 鈴木 凜子



「チヨキ、チヨキ、チヨキ」それは私の手にずつしり伝わる、初めての感覚でした。美容師さんの本物のハサミを借りて、六つに分けてゴムで結んだ五十センチの長い長いお母さんのかみの毛を切りました。

お母さんは、約四年前にヘアドネーションという活動を知り、そこからずつとかみの毛を伸ばしていました。ヘアドネーションとはガンや白血病、不りよの事故によつとかみの毛を失ってしまった十八歳以下の子供達に無しうでフルオーダーの人毛のウィッグをプレゼントする団体があり、そこに三十二センチ以上のかみの毛を寄付するという活動です。

市販されている安いウィッグは、化学せんいや、アクリルで出来ているため、二目でウィッグだと分かってしまうそうです。無しうでプレゼントされる人毛のフルオーダーのウィッグは、見た目も良くて喜ばれるそうです。この団体にかみの毛を寄付することで、助かる子供達がいます。この活動に賛同したお母さんは、寄付するためにかみの毛を伸ばしました。三十二センチ伸びたので、切ろうと思ったころ、ロングヘアのウィッグが欲しい子供が多いので五十センチ以上のかみの毛が必要だという話を聞いたお母さんは、そこからまだ伸ばし、ついに五十センチ以上切れる位になりました。

暑い日や、毎日のドライヤーは見えていて本当に大変そうでした。こうして約四年間伸ばしたかみの毛を、私と妹で切らせてもらいました。

「こんなにずっと伸ばしていたのにもったいないなあ」と思いましたが、お母さんは「また伸びるから大丈夫！これでだれかの役に立てるなら良いんだよ。」と言っていました。

約四年間も伸ばしたかみの毛を切った時、なんだかすごく重たい感じがしました。そして私もいつか寄付したいなあとおもいました。

一人のウィッグを作るのに、約三十人のかみの毛が必要だそうです。この活動が広まって、たくさんの方が笑顔になれたら良いなあと思います。

私もお母さんみたいに、少しでも何かだれかの役に立つ事が出来たらいいなあと思いました。

福祉作文の部  
中学生の部

最優秀賞

## 「福祉の心」

古川東中学校 三年 相澤 麻奈



私は、小学校の頃、福祉という言葉を目にしたことがあるけど、あまりよく知りませんでした。六年生になった夏休み、私がおおさき福祉の心コンクールの書道の部に応募しました。表彰式では、心温まる、ポスターや作文などのたくさん作品を見て「福祉」とはどういう意味なのか、興味を持ちました。調べてみると、福祉とは「幸せ」を意味する言葉だということを知りました。

そんな時、総合学習でデイサービスセンターに行く機会がありました。私達は、お年寄りに喜んでもらえるような遊びを考えて行き一緒に遊んだり、会話をしたり、介護士さんの手伝いをしたりと福祉の中の一つである、介護という仕事の体験ができました。大変そうなお年寄りとお年寄りとお年寄りに会話をすると素敵な笑顔を見て、私はこの仕事にとても魅力を感じました。私達も、お年寄りが喜んでる姿を見て、すごく幸せな気持ちになりました。福祉が「幸せ」を意味する「幸せ」とは、人と人が互いに幸せを与えるということではないか、と私はこの経験を通して思いました。

中学三年生になった今、私は将来、介護士になるために、いつも明るく笑顔でいること、思いやりの心を忘れないように生活しています。中学校生活は、実行委員や、学校委員、部長などをやり、人との係わりを通して、大変なことも支えられて乗り越えられる達成感を知りました。福祉は、社会福祉や児童福祉など様々ですが、それだけではなく、思いやりや支え合いの心の面も福祉なのだと、学びました。

また、私がここまで成長できたのも、家族や周りの人の支えがあったのと、地域の方々が、安心して住みやすいまちづくりをしてくれたからだだと気づくことができました。介護士は、体力的にも精神的にもきつい仕事だとよく聞きます。でも、相手の喜んでいる笑顔を見ると、嬉しい気持ちになれるし、高齢者の夢を叶えられる、やりがいのある仕事だと思います。

また、相手と直接向き合う仕事なので、介護だけではなく、ちょっとした日常会話などの関わりも大切です。中には、自分の思うように動けず、苦しんでいるお年寄りもいると思います。そこで私は、マイナスマな気持ちをプラスにして、勇気づける人になりたいです。そのために十五歳の私にでも、夢に近づけるためにできることは、地域の行事に積極的に参加したり、ボランティア活動の協力や、小さなことですが、挨拶など身近な高齢者と交流を深め、会話をしたりと今からでもできることはたくさんあると思います。

そして、高齢化が進む今、この介護という仕事は、社会にとっても必要な仕事だと思います。だから私は、介護士になりたいという夢を叶えて、今度は自分が、私を支えてくれた人達を支えていきたい、恩返しをしたいと思っています。